

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2674000308		
法人名	アサヒケアサービス株式会社		
事業所名	グループホームさくら		
所在地	京都府京都市西京区大枝中山町2-41		
自己評価作成日	平成29年1月15日	評価結果市町村受理日	平成29年6月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2674000308-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2674000308-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成29年2月27日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

個々の個性、持っている力を大切に常にご利用者さん、ご家族さんの思いに耳を傾け安全で、生き生きと暮らして頂けるように心掛けています。食事作り、掃除、買い物、食器洗い、洗濯物干しやたたみ、お茶配り、おはし並べ、布巾たたみなど何気ない日常を出来る事をして頂く事でやりがいを持って張りのある気持ちを持続できるようにサポートしています。地域行事にも積極的に参加させて頂き、地域の方にもホームに足を運んで頂ける働きかけをしています。個々の希望に合わせて外出も出来るように努力をしています。また、初詣、花見、廻り寿司を食べに行くなど皆で外出もしています。明るく楽しく毎日が送れるように、笑いの絶えないホームを目指しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

当該ホームは「生きる&活きるを大切に互いを支え合い共に過ごす」と独自の理念を掲げ、一人ひとりのできる力を大切に職員がサポートしながら調理や掃除、洗濯などの家事に携わってもらい、役割をもって暮らせるよう支援しています。地域との関わりでは地域の掃除やすこやか教室へ参加したり、マジックや踊り、ウクレレや三味線など多種多様なボランティアの来訪の他、地域の他施設とは互いに行事に参加し合い利用者同士が交流できる機会を作り、楽しみのある暮らしに繋げています。また利用者の希望を聞きながらよく行っていた百貨店や住んでいた地域の祇園祭など、思いに添った個別の外出支援に取り組むと共に、職員間には良好な関係を築き利用者を中心とした関わりや暮らしについて話し合い、一人ひとりの個性を尊重した支援に取り組んでいます。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社員証に理念を書き込み、スタッフ一人一人理念を常に意識できるようにしている。事務所内にも理念を掲示して常に見えるところに掲示している。	「生きると生きるを大切に互いを支え合い共に過ごす」と独自の理念を職員間で意見を出し合い作成しています。ホーム内に掲示し社員証にも記載し意識できるようにしています。会議やカンファレンスでは理念に立ち戻り意義を伝えたり、利用者を中心とした関わりや暮らしについて話し合い実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には、すべての利用者さんとはいかないですが、参加できるようにしている。地域の掃除にも利用者さんと共に参加している。回覧板も利用者さんに役割としてまわしてもらっている。	回覧板や運営推進会議等から地域情報を得てすこやか教室や自治会の掃除に利用者と一緒に参加しています。オカリナや音楽教室の子供たち、腹話術やマジック等のボランティアの来訪の他、他施設との交流や中学生の体験学習の受け入れ等多くの来訪者があり交流しています。また近隣からは畑の収穫物も届いており、地域との良好な関係を築いています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームでの行事に地域の人に参加してもらって交流を深めたり、地域の集まりに参加している。中学生の福祉体験の受け入れもしている。小学生向けのあんしんサポーター講座のファシリテーターもしている。児童館にも行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一回、運営推進会議を開催し、地域の方、入居者家族、後見人、近隣グループホーム職員に参加して頂き意見を出し合いより良いサービスの向上を目指している。	会議は後見人や民生委員の他、多くの地域の方や他施設関係者などの参加を得て開催しています。写真を見てもらい日常の様子を報告したり、行事や職員の状況、ヒヤリハット報告などを行い意見交換しています。離床センサーの使用について相談しアドバイスを基に職員間で再検討したり、得られた情報から地域交流が広がるなど有意義な会議となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の議事録、レジメを持参し、ホームの状況などを説明している。生活保護の人にも入所頂いているので、保護課の係りの人も面接に来所され、ケアプランも渡している。	運営推進会議の議事録を窓口に持参しホームの取り組み状況を報告しています。また毎月行われる市の事業者連絡会に参加したり、市の依頼を受け生活保護の方を受け入れることもあり、協力関係を築くよう努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、常に職員間で話し合い、ベッドも低床にして、頻回に見回りしている。昨年、骨折をしてベッド柵期間を決めてし、記録に残し、後見人にも了承を得た。玄関は夜間のみ施錠している。門は、国道に面している事から、安全の為に施錠している。	ホームの庭やホーム内は自由に過ごしてもらっており、国道に面した門扉は施錠していますが外へ行きたい方には職員が付き添っています。安全に付き添うためのセンサーの使用については運営推進会議で相談し、職員間でどのように使用するかなど拘束に繋がらないよう検討しています。また言葉による行動の制止などはその都度注意しています。	

グループホームさくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内での研修も虐待や拘束に関するものを積極的に取り入れている。新人職員にも研修をして全員が共有出来る様に努力している。外部研修にも行く予定にしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者が成年後見制度を利用されているので、実践でも学び、活字でしか知らなかったことが、身近で活用できる機会が出来た。新人職員にも周知できるよう今後していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、読み合わせをして、疑問点がないかの確認をし、解約時にも何度も電話をしてしっかり納得して頂くまで説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に行うイベントに家族の方をお招きしてご要望や意見を聞く様にしている。また、来所時電話等で要望をお聞きして、反映している。今後、アンケートをとったり意見を言いやすい環境をさらに作っていく予定です。	日々関わる中で聞いた利用者の希望は、暮らしの中で支援に繋げたり、家族の来訪時には利用者の様子を伝え意見や要望がないかを聞いています。運動やリハビリ等の要望については職員間で検討し全体の取り組みに繋げ、個別の要望についてはその都度対応しています。今後は家族同士の繋がりがりや意見を出しやすいように考慮し家族会の開催やアンケートの実施を検討しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム長会議や、ホームでの一斉会議を月に一回開催して職員の意見の発言を行っている。また、管理者は常に聞く姿勢で職員の意見を聞いている。代表者までは、なかなか届いていない。	月に1度のホーム会議では多くの意見を引き出せるよう全職員に発言を求め、月毎の取り組みや目標を話し合い決めています。また年に2回管理者との個別面談もあり、意見を出せる機会になっています。職員は積極的に意見や提案を出しており、内容によっては法人のホーム長会議にあげ、検討し運営に反映しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が個々の頑張りを把握しているかは、疑問ですが、管理者は努力も勤務状況も把握して、やりがいをもってもらう働きをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者がケアの実践と力量を把握しているとは思えませんが、統括部長が法人研修の指揮をとり、各管理者が研修を担当しています。		

グループホームさくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホームでのイベントに近隣グループホームの職員利用者に来所頂き、運営推進会議にも参加させて頂き、良い面をホームに持ち帰り実践している。歩人研修の講師に他事業所の方に来て頂いたりもしている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご家族、本人から以前の生活状況や困り事を聞いたり、施設職員、居宅のケアマネから情報を得たり、センター方式を作成し本人理解に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の面接時、契約時、電話等で不安や困っている事がないように、こまめに耳を傾けて真摯な態度で関係作りを心掛けている。また、センター方式に記入して、不安な事も記入して頂いたりしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家人さんとご本人さんに事前に面談し、お話を伺い相談し、度ごとに話し合うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る力を引き出せるように努めている。出来る事と、出来なくなってきていることを定期的なカンファレンスで話し合い、出来るようにする援助を心がけている。新人職員にもそのように説明している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事の際には、家族さんもお呼びして一緒に食事をしてもらい、普段の姿をみてもらい共有できる環境づくりや毎月近況報告のお手紙をかいている。また、一緒に外出して頂ける様にしたり、洋服、下着の購入をお願いし、本人を身近に感じてもらう。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お子さんに散髪に連れて行って頂いたり、馴染みの場所に食事に連れて行って頂けるようにしたり、近くに住まれているご親戚に行事の時に声を掛けて一緒に食事をして頂いたりしている。	知人や近所だった方、親せきなどの来訪時には、居室やリビングなどでゆっくりできるよう配慮をしています。馴染みの理髪店や住んでいた地域の祇園祭、よく行っていた百貨店などに職員が付き添って出かけています。墓参りの希望があり、彼岸の頃に職員が付き添う予定にしています。また手紙のやり取りをする方もおり、投函などを支援しています。	

グループホームさくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	新しく入って来られたご利用者さんが早く馴染めるように話があいそうな方と食事の際、一緒にテーブルにしたり、何かをする時も職員が間に入り、一緒にすることで円滑に運べる努力をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状のやりとりから、近況報告を知ることができる。突然訪問頂き近況を知らせて頂く時もある。いつでも対応できるように心がけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いを知ろうと努力している。また、会話や行動の中から本人の希望や意向を感じ取り、思いに添うようにしている。その都度かわりゆく思いにも柔軟に対応出来るよう話し合い共有できる環境づくりをしている。	入居時は本人や家族と面談し一人ひとりの思いや意向を聞き、家族にもこれまでの暮らしの様子などを書いてもらい多くの情報を収集し意向の把握に努めています。また入居後は利用者の思いに傾聴し、意向に繋がる情報や職員が気づいたことは詳細に記録に残し、思いの把握に繋げています。また利用者を深く知るためのひもときシートの研修にも参加しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの暮らしぶりを家族に聞いたり、利用していたサービス先から聞いたり、これまでの生活がどのようなであったかを知り、継続出来るように努めている。また、会話の中から馴染みの暮らし方や、好きなものなど探る努力をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の体調やその日の様子を、職員間で共有出来るように、一日二回の申し送り時に日常の情報、変化を知らせあって、有する力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	三か月ごとにモニタリングを行い、カンファレンスを開催して、本人の情報、家族からの話や希望、医師、看護師からの助言を元に皆で話し合い、今を知ることで介護計画を作成している。	アセスメントの基、本人や家族、必要に応じて看護職員の参加を得てサービス担当者会議を開き介護計画を作成しています。個人記録に介護計画を印字しており日々実施状況を確認し、3ヶ月毎にモニタリングを行い、状況に変化のない場合は6ヶ月毎に見直しています。見直しに向けてはカンファレンスで集約した他の職員の意見や必要に応じて医師の意見を反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録を介護計画にそった内容を記載して、日々記入している。また、時系列ではない、利用者本人の言葉を書き出すこと、で思いや、訴え、希望、気づき、が見えてくるようになってきている。		

グループホームさくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の変化に常に敏感に感じ取り、何が必要か、何を求められているのかを、常に感じ取れるようにアンテナを張って、柔軟に対応出来るようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事にも積極的に参加し、地域の掃除にも必ず参加している。近隣施設のイベントにも参加している。回覧板を持って行ったり地域の方々とも交流し、日々の生活を楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携病院の主治医往診が2週間に1回ある。主治医は提携病院で、半年に一回以前の病院にかかっている人もいる。また、歯科往診も希望に応じて受けており、ケアは毎週受けている。近所の眼科に付き添うこともある。	入居時にかかりつけ医を継続できることを伝えていますが、殆どの方が提携医を選択し2週間に1度の往診を受けています。週に1度健康管理を行っている看護職員は医師と連携を図り、24時間随時職員の相談に応じています。また専門医はかかりつけ医を継続している方も多く、家族や状況に応じて職員が同行し受診しています。希望に応じて訪問歯科の治療や口腔ケアを受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	専属の看護師に個々の体調変化を克明に伝え看護師からの指示にしたがっている。また、往診時、受診時にも訪問の看護師に相談出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	こまめに病院に行き様子を見て、医師、看護師と情報交換している。病院の相談員とも密に連絡を取り合って早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調の変化に伴い日々の様子を家族に伝える事により、家族の思いも受け入れ、共に相談している。また、事前指定所を用い、家族の意向を把握するようにしている。	契約時に終末期の対応について説明し、その時点での意向を確認しています。重度となった場合は本人や家族の意向を大切に医師や家族、職員で話し合い方針を決めています。支援の際はカンファレンスを開き職員間でも方針を共有し、ケースごとに研修を行っています。往診医や看護師に頻回に来てもらい連携を図りホームでできる支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署が来所し救命講習を受けたり急変時にはナースの指示を受けている。管理者に連絡を入れ、緊急連絡網も作成し、提携病院に搬送できるようになっている。		

グループホームさくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回避難訓練をしている。夜間想定、地震想定もしてみた。年に一回は消防署職員が来て指導して頂く。地域の方に見に来て頂いてアドバイスを頂いたりする。新人さんに特に避難訓練に参加してもらう様にしている。	年に2回昼夜を想定した訓練を実施し、1度は消防署の指導の下昼間を想定し通報や避難誘導、消火器の使用方法などを行い、独自では地震を想定した夜間の訓練を行っています。訓練時には民生委員の協力が得られ運営推進会議でも議題にし協力体制の構築に向け働きかけ、防火管理者が水や食料、備品などを用意しています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレに誘導時にも耳元でトイレに行きますか？と誘い、失禁時にもさり気ない言葉かけにて、トイレに誘導するように努力している。子供扱いしない言葉かけを互いに気を付けている。	会議の中で接遇マナーに関する研修を行い人生の先輩として意識した言葉遣いや対応をするよう伝えると共に、職員アンケートを行い日頃の対応を個々に振り返る機会を作っています。声の大きさや分かりやすさなどは一人ひとりに合わせ、排泄介助の際はできる限り同性介助に努めています。馴れ合いなどの対応が見られた時はその都度注意をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事作りの手伝いや、音楽を聞く楽しみ、好きな歌手のCDを聞いてもらったり、飲み物、おやつにしても何種類かの中から選んでもらう様に心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴時間を午前、午後と時間をとり本人の希望を優先している。声掛けを午前、午後とする事で、気が変わって入りたいと思われたりする。曜日を決めてしまわず、入りたい日に入って頂けるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お子さんの近所の散髪屋に家族と共に行ける様にしている。洋服も家人が購入し持参される時もあるが、希望を聞いて職員が選び購入する時、好みを分析して購入してくる時、臨機応変に対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好きな食べ物を会話から引き出し、メニュー作成時に好みの物を組み込んだメニュー作りをしている。また、一緒に食事の盛り付けをしたり、味見をしてもらったり、後片付けをしている。	利用者の希望を聞きながら献立を決め食材は注文配達してもらっています。台所では調理をする利用者もおり、其々できることに携わってもらい一緒に食事を作り、職員も談笑しながら同じ食事を摂っています。手作りのお節料理や手巻き寿司をしたり、寿司や弁当を選んでもらい出前を取ったり、行事の際の夕食、時には家族と共に食事をする機会を設け楽しんでもらっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取表を個々に付けて量を把握している。職員が回りもちでメニューを考える際にも、野菜が摂取できるメニューに気を付けたりしている。水分にとろみをつけたり、刻んで食べやすくしたりその人にあった食事形態で提供している。		

グループホームさくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、夕食後に口腔ケアをし、歯科往診で口腔ケアを1週間に1回して頂いている。また、義歯の調整もしたり、新しい義歯も作ってもらっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を作成して、個人ごとの排泄パターンを理解し随時誘導している。また、パットの大小も皆で検討しその時に必要なパットを使って頂けるような支援をしている。	排泄記録や排泄のサインを見ながら個々に合わせて声掛けや誘導を行っています。職員から利用者の状況に合った排泄用品への変更や支援方法について提案が出されており、随時カンファレンスで検討しています。布の下着で過ごせるようになったり、パッドの使用が減るなど改善する方も多く、失敗なく快適に過ごせるよう支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取表を作ってその人に必要な水分を摂って頂ける様にしている。毎日の献立も職員皆で回して作成しており、野菜が沢山摂取できるように工夫したり、ヨーグルトをおやつに入れたり、トロミを使うことで便秘解消に繋がっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前から午後まで入れる時間を長く持ち、入れる時に希望を聞いて入って頂けるよう支援している。体調の悪そうな時はこちらから様子を見て延期するときもある。	入浴は週2~3回は入れるよう支援し、午前や午後の希望を聞きながら声をかけ入れる方から入ってもらっています。今年は脱衣室に暖房が取り付けられ、季節の柚子湯や入浴剤を入れたり、好みのシャンプーを使用する方もおり、快適に入浴を楽しめるよう支援しています。また入浴を拒む方にはタイミングを変えながら声をかけ無理のない入浴に繋がっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の生活状態を観察した上で入床の声掛けをしている。日中でも様子を観察した中で、居室に誘導して横になって頂く声掛けをしたり、ソファーでウトウトしている人もいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用を常に意識している。また、往診時の薬を薬剤師が持ってきた時にも、薬のプラス面マイナス面を聞き飲み方等の指導も受ける。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を家族から聞くと共に、本人から会話の中で聞き出したり、好きな音楽を常に聞いて頂いたり、好きなおやつを三時に提供したりしている。		



グループホームさくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調を十分に考慮して、またその人の行ける範囲、歩ける距離を考えて、行ける場所に付き添って行っている。また、地域の行事にも積極的に参加している。車椅子を歩きは押していき、帰りは乗って帰る事もある。	天気の良い時は一人ひとりに合った距離を選び散歩や近隣のコンビニに買い物に行ったり、庭で日光浴をしてもらっています。初詣や桜の花見、紅葉狩り、他施設の行事への参加の他、すこやか教室などの地域行事にも積極的に出かれています。外出行事によっては家族に声をかけ一緒に出掛けたり、希望を聞きながら百貨店への買い物など個別の外出支援にも取り組んでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望があれば一緒に買い物に行き、食べたいもの、いるもの等の購入をしている。頼まれて職員が買い物に行くこともある。が、所持はしてもらっていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば手紙を差出しに行く、年賀状が届く方もおられる。手紙を書かれる援助をすることもある。携帯電話を持って自由に電話されている方もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、季節感を取り入れた壁面飾りを利用者と共に作り、飾りつけたりしている。トイレが寒くないように暖房を付けている。	利用者同士の相性を考慮して居心地よく過ごせるよう座席やテーブルの配置を決めています。ソファを数か所置いたり、2階にもテレビやソファを置いた共用空間があり、好みの場所で寛げるよう配慮をしています。また日めくりカレンダーや季節に合わせた雛飾りなども行い季節や日時を分かりやすくしています。台所と食卓が近く、調理の音や匂いを感じられ生活感や家庭的な雰囲気のある共用空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	立ち上がりやすい、座り心地の良いソファを段々増やして5客あるが、置き場所をみんなで話し合い、今は両サイドに置いた。事務所にきておやつを食べる人もいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前よりの好みの家具、お使いであったポータブルトイレや日用品を持参頂き、必要に応じて家族と相談して購入頂いたりしている。	入居時に馴染みの物を持ってきてもらうよう伝え、自宅を見せてもらう場合は居室づくりの参考にしています。利用者はテレビや筆筒、机と椅子、炬燵などの使い慣れた家具の他、家族の写真や仏壇などの大切なもの、ラジカセや編み物などの趣味の道具も持ち込み家族と相談しながら過ごしやすいよう配置を決めています。日々掃除や換気を行い清潔な空間を保っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや洗面所には付き添い、ご自分で行える事の把握に努めている。手伝えば出来ることは、さりげなく援助している。階段を使われるときには付き添い様になっている。		